教育目標	○自ら学び、自ら考える力を育成し、創造的な能力を培い、健康で心身ともにたくましい生徒を育てる。 ○真理を見極める目を養い、正しい判断力と強い意志のもと、自律的な生活態度を育てる。 ○人権尊重の精神を培い、自他敬愛に基づく人間関係を深め、社会連帯の精神を培う。	総合評価
運営方針	○本校の「自主自立、自由闊達」の校風と「文武両道」の伝統を受け継ぎ、新しい時代の流れを踏まえ、進取で創造的な教育を推進する。 ○全教職員が、目指す学校像・生徒像を共有して組織力と個々の技量を最大限に発揮する中で、教えることと教えられることに喜びと感動のある学校づくりを推進する。 ○生きる力を育成することを目指して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育み、生徒の言語活動の充実や主体的に学習に取り組む態度・学習習慣の定着を図るとともに、人間としての在り方生き方に関する教育を一層推進する。	A

平成29年度の成果と課題

「授業研究の週」における授業公開、ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞに関する研修等をとおして授業力の一層の向上を図ることができた。

キャリア教育の推進や進路目標の実現に向けた様々な取組により、確実な進路実績を残すことができているものの、早期から進路目標を持たせ、その実現に向け部活動と両立させながら、家庭においても学習時間を確保し、学習を習慣化させていくことが課題として残っている。

近隣小中学校と連携した清掃活動、挨拶運動や市内小学校での体力テスト実施補助等、地域に貢献する活動を実施した。

本年度重点目標	具体的目標
授業力をはじめ幅広い指導力の改善と充実に努め、生徒一人一人の学力を具体的に伸ばして夢と希望の実現を図る。	指導方法等の研究と改善に学校をあげて取り組み、指導力の向上を図り、生徒に応じたきめ細かな指導を計画的に進めながら、基礎・基本の定着と主体的で意欲的な学習の促進し、一層の学力の伸長につなげる。また、早い段階から生徒の将来設計や自己実現への意識付けを図り、生徒の可能性と進路選択能力を高めながら、進路第一希望の実現に向け組織的かつ計画的な指導を推進する。
自律的な生活態度を確立し、自己管理能力の育成を図る。	学校生活における生徒の実態や意識を把握･分析し、一人一人に自らの在り方を考えさせながら、組織的・計画的に指導を進める。その中で、規範意識の向上を図り、自主性や自己を律する心を育てるとともに、けじめと節度ある生活態度を確立する。また、様々な危険や事案に対しても、生徒が自らの判断で危険を回避し、適切に行動できるよう主体的な力を育成する。
「地域と共にある学校づくり」を進めながら、社会性や奉仕の精神を養い自立した社会人を育成する。	幅広い学習活動や特別活動、部活動やキャリア教育に関する活動などの充実や地域に貢献する教育活動を工夫し、自他を尊重する態度、社会性や奉仕の精神など豊かで幅広い人間力を養い、自立した社会人を育成する。
各分掌・学年等の組織として対応する力の充実を図り、マネジメントサイクルを有効に機能させて確実に改善と充実を進める。	校務各分掌・学年・教科等の組織として対応する力を高めるとともに、各分掌等の有機的な連携を図って学校全体の組織力を強化する。 また、学校評価や学校改善アンケート等を活用し、PDCAサイクルに基づいて具体的で効果的な計画と実施、検証と改善を進めることにより、すべての教育活動の一層の充実を図る。

評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	教科学習や特別活動・部活動等を通じて、主体的に学び、生涯にわたって学び続ける学習者の養成を推進する。	生徒・保護者の進路希望を正確に把握し、その実現に向け、「変化の激しい不確実な時代を生き抜く力」の育成を目指した教育を行う。	学校改善アンケートで「信頼や願いに応える学校づくりができているか」の質問に対し、95%以上の賛同を得る。	A	A	A	「信頼や願いに応える学校づくりができているか」の質問に対し、90.3%の賛同を得た。概ね保護者にはご理解いただいていると考える。	生徒・保護者のニーズに応えつつ、不確実な時代を生き抜く力を育む教育について保護者に理解を求めていく必要がある。	「学力向上を図るための適切な授業」に向けた改善の取組、生徒自ら学習に臨む姿勢を育成する取組に関する組織的な研修を更に推進してほしい。 新学習指導要領に向けて教育課程の見直しが検討されているが、習熟度別授業の可能性も含め、進路選択に応じた講座編成を探る取組の充実を期待する。 「授業研究の週」の取組の充実を期待する。教員自らがその専門性をより高め、教育内容を深めることは、生徒の学習意欲を高めることに繋がっていくものである。
		生徒の興味関心や進路の多様性を踏まえ、「めざす学校像・生徒像」を具体的に反映する教育課程を工夫し編成する。	生徒による授業評価アンケートで「生徒が授業に意欲的に取り組んでいるか」の質問に対して80%以上の賛同を得る。	A			「生徒が授業に意欲的に取り組んでいるか」の質問に対して70.0%の賛同を得た。 普通と答えた生徒を入れると約95%にのぼる。	新学習指導要領に向けて教育課程の大幅な見直しが必要である。生徒が主体的に学べる授業になるよう工夫が望まれる。	
	基礎・基本のより確実な定着と、生徒の意欲的な学習態度の定着を図る。	課題テストにより生徒個々の基礎学力を把握し、生徒が能動的に学習できるよう授業改善に取り組む。	学校改善アンケートで「学力向上を図るため、適切な授業を行っているか」の質問に対し、90%以上の賛同を得る。	B	B		「学力向上を図るため、適切な授業を行っているか」の質問に対し、81.0%の賛同を得た。	授業はもちろん授業以外でも、生徒自ら学習に臨む姿勢を育成する取組を実践する必要がある。	
		授業を大切にするとともに､家庭学習の重要性を伝え、「予習→授業→復習」の学習サイクルを習慣付ける。	家庭学習時間調査を行い、１・２年生の家庭学習時間の平均を２時間以上にする。	B			１年88分、２年96分であった。生活習慣の確立が十分できていない生徒が多い。	学習と部活動との両立が本校の目指すところでもあるので、継続的な指導が重要である。	
	授業力の充実と生徒の「確かな学力」の伸長を図る。	「授業研究の週」を年間５回設定し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、教員の授業力を向上させる。	教員による授業見学(校内外)を全員が４回以上行う。また、校内研修を年間２回行う。	A	A		校内研修を２回行った。また、授業見学は平均5.3回であった。主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の展開を今後も行いたい。	アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業展開を行い、今後も授業研究を行っていく。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
生徒指導	教員間の生徒指導に対する共通理解と共通指導を図る。	教員からの積極的な挨拶や声かけにより、挨拶の徹底を図る。	登校時、校門での挨拶の自己評価を90％以上にする。	A	A	A	目標達成だが、自ら積極的に挨拶し、更に一言かけられるようになれば一層よい。	日々の継続した声かけによる人間関係の醸成を図っていく。	登下校指導を始め、生徒に対する指導が丁寧に取り組まれており、自らで判断し行動できる生徒が多数いるように感じる。規範意識の向上に向けて更に努力を続けてほしい。 生徒一人一人を大切に考え、面談等の丁寧な取組が続けられている。また、スクールカウンセラーとの連携や教育相談体制の構築も順調に推進されている。心身の悩みを抱えた生徒の早期発見と適切な指導・対応を今後も期待する。
		チャイム着席と遅刻生徒の個別指導を行い、時間厳守の徹底を図る。	遅刻を前年度比25％減にする。	C			前年に比べ約30％増加した。学年進行で増加する傾向を抑えていくのが課題。	早い段階での個別指導を徹底していく。	
		清掃活動の徹底・自転車駐輪場の整理整頓など生活マナーの向上を図る。	校内のゴミをゼロにする。自転車の整然とした駐輪状態を保つ。	A			全体的な駐輪状態はまずまずだが、部室周辺の環境整備が不十分。	生徒自身にも活動する機会を設け、意識向上に努める。	
	規範意識の涵養を図る。	定期的な身だしなみ点検を実施し、服装・頭髪等を整えさせる。	身だしなみの自己評価を90％にする。	A	A		目標は達成しているが、100％になるよう指導していく。	校門や教室での点検とともに、自らが考えて行動するよう呼びかける。	
		公共交通機関や通学路におけるマナー指導を徹底する。	マナーの自己評価を90％にする。	A			目標は達成しているが、大きな荷物を抱えての公共交通機関利用には注意が必要。	通学路や乗車での指導等を行い、更なる規範意識向上を図る。	
	事故防止と緊急時の適切な対応力を養成する。	SNSや防犯、交通安全についての講演会等を行い、危機管理意識の向上を図る。	登下校時の事故や犯罪被害をゼロにする。	A	A		被害ゼロではないが、早期対応・早期解決はできたのではないかと思われる。	危機管理意識を向上させられるよう関係機関と連携・指導していく。	
		交通安全や情報機器等における問題について啓発文書を配布し、家庭との連携を図る。	学校改善アンケートにおいて、生徒指導に関する理解度を90％以上にする。	B			一定の理解は得ているが、新たな課題について、更に連携を深めていく。	三者懇談時だけでなく、ホームページ等でも呼びかけていけるよう工夫する。	
	教育相談体制の充実に努める。	スクールカウンセラーと協力しながら、生徒や保護者との人間関係を深め、心身の悩みを抱えた生徒の早期発見と適切な指導・対応を行う。	悩みを抱える生徒や不登校傾向生徒等について、早期の適切な対応と改善を図る。	A	A		かなり連携を取りながら生徒の指導に当たることができた。今後も継続していく。	職員や生徒向けの講義等も継続しながら、早期に適切な対応ができるようにしていく。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
進路指導	早い段階から進路に対する高い意識を持たせる。	模試の前後に担任や教科担当と連携して、模試デジタルサービスの利用も含めて事前準備や復習をするよう啓発する。	模試の事前学習（過去問への取組）と復習をする生徒を90％以上にする。	B	A	A	各学年とも模試の２週間前ぐらいから過去問を配布し、事前学習に取り組ませた。ただし、復習した生徒は25％程度で、特にデジタルサービスの活用は少なかった。	事前学習については今まで通りに取り組ませたい。模試デジタルサービスの活用が少ないので、模試返却時に担任から活用も含めて事後指導の時間を取る。	進路説明会や進路セミナー、キャリアガイダンスをとおして、更なるキャリア教育の充実・推進に努力してほしい。地域人材の活用等も視野に入れた取組を検討してもよいのではないか。 大学入試新テストに向けた取組や１，２年次における実力養成講座の早期実施等、生徒の進路目標の実現に向けて、通塾に対する課題や部活動との両立などに丁寧に対応して、公立高校として意欲的な取組を期待している。
		進路委員の活動として、生徒向けの進路ニューズレター「進路のすゝめ」を発行し、生徒自らの力によって、キャリア発達を促す。	ニューズレター「進路のすゝめ」を年間３回、発行する。	A			１学期に類型別の学校生活について発行し、２学期にはオープンキャンパスについて発行した。３学期にも発行予定。	進路委員の活動の一環として今後も続けていきたい。特に調査する時間や調べ学習の時間を多く取たい。	
	確かな学力を身に付け、生徒の進路実現を確実なものにする。	ＨＲや集会等をとおして家庭学習の大切さを理解させ、部活動顧問とも連携を取りながら、家庭学習の習慣化を図る。	１・２年生の家庭学習の平均時間を２時間以上にする。	B	A		家庭学習の平均時間は、１年生が88分、２年生が96分であった。	定期考査の前だけでなく、模試の前後でも学習する習慣を身に付けさせたい。また、部活動顧問とも連携を密にして、家庭学習の習慣化を図りたい。	
		GTEC（４技能）を実施し、英語科や学年と連携しながら、１・２年生の生徒の英語力を向上させる。	夏期休業中の課題として付属の教材を配布し、テストに備えさせる。 また、１年生においてSpeakingを実施する。	A			夏期休業中の課題として「ステップアップノート」を与え、10月のGTECに備えさせた。 また、Speakingについても11月に実施した。	来年は２学年とも４技能を実施する予定である。特に、Speakingの実施はかなりの労力であるが、教員の研修も含めて取り組む。	
		放課後や休日に実施する実力養成講座を充実させ、進路実現に向けて生徒の意欲を持続させる。	３年生の実力養成講座（夏期及び２学期）の出席率を90％以上にする。	A			夏期休業中は経済会館で実施した。また、休日講座や冬期休業中も実施したが、出席率は概ね良好であった。	来年度も夏期休業中は経済会館で実施の予定。生徒の学習意欲をかき立てる契機としたい。	
	一人一人の適性等に基づく進路選択をさせ、進路目標の実現を図る。	進路説明会や進路セミナーの開催、オープンキャンパスの紹介等により、将来の進路について考える機会をつくり、進路目標を持たせる。	進路目標が「未定」である生徒の割合を、３学期に調査し、１年生で10％以下、２年生で５％以下にする。	A	A		１年生の進路希望の「未定」者は14％、２年生の進路希望「未定」者は３％であった。	進路説明会や進路セミナー、キャリアガイダンスを通じて、将来の進路について考える機会を作っていく。	
		生徒・保護者向けに「進路だより」を発行して、進路に関する情報を発信し、進路目標の実現につなげる。	「進路だより」を学年ごとに、各学期それぞれ２回発行する。	A			各学期に２回ずつ発行することができた。	従来通りに発行し、保護者に積極的に情報を発信していく。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
特別活動・部活動	生徒一人一人の自主性・創造性・協調性を育成し、学校行事の活性化を図る。	生徒会執行部が中心となり学校行事の内容やボランティア活動等を企画させるとともに、全校生徒に協力を呼びかける広報活動に積極的に取り組ませる。	広報活動を年間10回以上行う。	B	A	A	学校行事の内容を見直し、文化祭の安全な実施や募金活動等を企画した。現在まで、「生徒会だより」を３回発行した。	各学校行事への生徒の主体的な参加と内容充実のため、より効果的な事前周知活動の工夫が必要である。	地域貢献活動の一環として続けている小・中・高の連携はとても有意義な取組である。よりきめ細かい連絡・連携を期待する。 コミュニティースクールに関する取組を推進するため、地域の連携先との「関係」を更に充実させることができるよう校内の組織化を更に充実させることが必要である。
		耐震工事期間中に行う文化祭が安全に実施できるよう計画を立て、生徒全員参加の魅力的な内容を創り上げる。	事後アンケートにおいて、文化祭に対する生徒の肯定的評価を98％以上にする。	A			生徒の肯定的評価は99.0％であったが、企画や計画面等で更に改善、改良に取り組んでいる。	耐震工事、準備期間の短縮・安全面など課題は多く、より早い時期からの準備が必要である。	
	生徒に「地域と学校とのつながり」を意識させ、社会への貢献意識・参加意識、奉仕の精神を培う。	生徒会執行部が中心となり学校周辺地域での挨拶運動、募金活動、学校行事等の広報活動などに取り組む。	合わせて年間10回以上行う。	A	A		現在まで、挨拶運動を６回、募金活動を５回、広報活動を１回、清掃活動を１回実施した。	自主的な参加生徒の増加と内容充実のため、きめ細かい計画と事前準備が必要である。	
		地域連携委員会が主体となり、地域の小学校・中学校・高校・病院等と連携し、地域の清掃活動や交通安全運動等の活動を更に推進し、生徒の規範意識を醸成する。	合わせて年間10回以上行う。	A	A		地域貢献活動として、現在まで小・中・高が連携した取組を６回、地域の関係機関や他校と連携した取組を６回実施した。	地域の連携先との「関係」を更に充実させ、よりきめ細かい連絡・連携が必要である。	
	部活動をとおして生徒の規範意識を高め、社会で生きる基礎力を身に付けさせる。	部活動集会や部活動キャプテン会議等をとおして、生徒に規律やマナーの大切さを指導し、挨拶や部室周辺の清掃、節電などを徹底させる。	部活動生徒による挨拶を100％にする。	B	B		各部活動顧問の協力を得て、挨拶指導・清掃指導等を行っている。今後も部活動顧問間の共通理解を図りながら、取組を継続していく。	次年度以降も部活動顧問間の共通理解を図りながら、取組の継続が必要である。	
人権教育	ＨＲをとおして人権感覚を身に付けさせ、生徒参加の人権啓発活動の充実を図るとともに、教職員の実践力を高める。	人権教育ＨＲにおいて、今日的なテーマ（いじめ、SNSを巡る問題、セクシャルマイノリティなど）を取り上げ、心に響くＨＲの充実を図る。	知識の導入だけでなく感性に訴える視聴覚教材・補助資料を各学年１回以上活用する。	A	A	A	感性に訴える視聴覚教材等を使用することで、心に響くＨＲの充実を図ることができた。ただし、耐震工事中のため、視聴覚機器を完備している教室が不足していることが課題である。	視聴覚教材を使った教材の開発を、人権教育部を中心に継続的して進める。	校内で実施する研修やセミナー等の内容は興味深く、充実したものであると思う。保護者や地域の方々への参加啓発の取組を積極的に推進してほしい。 ヒューマンハート委員会・ヒューマンライツ部の活動活性化に向けた取組の充実・発展を図る。そのため、生徒の意見を活動内容にできるだけ反映させる工夫を行う。
		ヒューマンハート委員会・ヒューマンライツ部の年間活動内容を示し、生徒の意見を反映しながら、活動を充実させる。	関係団体行事への生徒の参加を年２回、人権啓発標語とニューズレターを各５回（年間計10回）発行する。	A	A		予定どおり、年間の活動を実施している。また、生徒の意見を活動内容に反映させ、活動の活性化を図った。	生徒の活動を更に活性化させるため、生徒の意見を活動内容にできるだけ反映させる。	
		各種研究団体が行う講演会等の年間一覧表を作成し、教職員の各種研修会への参加を促し、実践力の向上を図る。	各種研修会、講演会への参加率を50％以上にする。	A			人権教育関係の研修会へは、積極的に参加できた。（90％）	全教員が均等に研修会に参加できるよう配慮する。	
	ＰＴＡとの連携を深め、保護者とともに人権啓発の充実を図る。	教職員・ＰＴＡ合同研修会、人権教育講演会への保護者の参加を増やす。	保護者の参加を60名以上にする。	A	A		校内で実施する研修会や人権講演会へは、積極的に参加された。（計62名）	研修会への参加を勧めるための案内文や配布方法を工夫する。	
		校内「人権作文集」を配布し、保護者からの感想文の提出をとおして、保護者への啓発を進める。	保護者の感想文の提出を60件以上にする。	B			10月下旬に「人権作文集」を発行し、その後保護者に感想文の提出を求め、多数の感想文が提出された。（45件）	保護者への「人権作文集」の周知を徹底できるよう、案内方法等を工夫する。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
読書指導・文化学習	読書習慣を定着させ、活字情報を正しく理解する力を付ける。	図書広報紙「知新」の発行や本の紹介ＰＯＰ掲示（展示）をとおして、読書週間「マーサータイム」を充実させ、読書に興味を持たせる。	「知新」を春夏秋冬４回、「マーサータイム」に呼応して発行する。また、会議室前に適宜図書委員による本の紹介のＰＯＰを掲示（展示）する。	A	A	A	「知新」を春夏秋冬の４回、「マーサータイム」に対応し、発行した。11月下旬より会議室前での本の紹介やタイムリーな話題についての展示を行い、興味喚起の一助とした。	地道な活動ではあるが、自ら本を選び、本に触れる機会を少しでも多く提供できるよう、掲示（展示）方法を等を工夫し、継続していく。	創立100周年プレ記念事業として、芸術鑑賞会の実施日程と参加形態が確定している。次年度の実施に向けて詳細な事前指導計画の立案を検討する。 新聞の複数配置等、活字情報に触れる機会を増加は有意義なものである、利用方法の啓発を工夫して、利用促進を図ってほしい。 タブレット型ＰＣの活用等、最新の技術革新を体感できるような授業展開が可能な環境整備を、創立100周年記念事業との関連において検討していく。同時に、ＳＮＳの利用方法を含め、情報モラルに関する指導においては、より具体的な事例を用いた取組を進めてほしい。
		国語科や芸術科、学級担任と連携し、読書感想文または読書感想画を１・２年生の夏期課題として提出させる。	読書感想文または読書感想画のねらいを確認し、提出率を95％以上にする。	A			作品の提出率は96.7％。クラスで選出し、提出された作品はいずれも自分の言葉で綴られ、作成の意図を踏まえて提出させることができた。	自らの考えを言葉で書き記し、構成を練ってじっくりと取り組めるよう啓発し、継続して行う。	
		１学期の「知新のつどい」はビブリオバトルを開催し、読書に興味を持たせる。	「人をとおして本を知る」「本をとおして人を知る」ことに興味関心を喚起し、参加生徒数を50人以上とする。	B			例年と実施方法を変え、予選と本戦を行った。参加人数42名。予選から各グループで盛り上がり、興味関心を持って取り組むことができた。	参加者全員で本について語り合うことができ、本を通じて交流ができるため、今後もこの方法で実施していく。	
		新聞を複数配置し、活字情報に触れる機会をつくる。	３年生が多く利用する進路室前にはその日の新聞を、他の設置場所にも複数の新聞を配置し、利用を促進する。	A			知新館、進路室前、食堂に計４社の新聞を、また、南舘２か所にも新聞を配置し、身近に新聞に触れる機会をつくることができた。	身近で利用できる配備が整ったので、利用方法を啓発し、更に利用促進を図っていく。	
	芸術・文化への理解・関心を深める。	創立100周年プレ行事の一環として芸術鑑賞会を企画し、日程、当日のタイムテーブル、運営方法等を具体化する。	来年度の実施に向けて事前指導、当日のタイムテーブル、欠席者への対応や不測の事態への対応など想定しうる事案に対処できるよう準備する。	A			実施日程と参加形態が確定した。チケットの納品、当日の入場、移動方法、事前指導計画について、新年度からすぐ提示できるよう準備を進めている。	実施に向けて、関係各担当との連携を密に進めていく。	
		第１学年及び国語科と連携し「新春小倉百人一首かるた大会」を実施し、古典に親しむ機会とする。	事前に小倉百人一首かるたの和歌を覚えるよう促し、関心を高める。	A	A		国語科より百人一首を覚え、古典に親しめるよう取り組ませる課題があり、意欲的にかるた大会に臨む体制をつくることができた。	古典に親しむ機会として、今後も続けていく。	
		「知新のつどい」の内容を生徒とともに企画し、できるだけ多くの生徒が関心を持って参加できるようにする。	２学期は、芸術に親しむ機会を、３学期は生徒参加型の講座をそれぞれ開講し、参加生徒事後アンケートの肯定的回答を80％以上にする。	A			２学期はミニ音楽会を実施、３学期は新聞の読み方講座を実施し、参加生徒の満足度は高かった。	実際に参加した生徒の満足度は高いが、自ら積極的に参加する生徒は少ない。行事を精選しつつ、良いものを生徒に提供できるよう企画していく。	
健康安全	新体力テストの結果を踏まえ、体育の授業・体育の内容の充実を図り、体力の向上やスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	体育の授業においては、体つくり運動を積極的に取り入れ、個々の体力の向上を図る。	新体力テストのＡ評価を、全体の10％以上にする。	A	A	A	新体力テストのＡ評価は、男子14.8％、女子9.1％で全体の11.0％である。	体つくり運動等を継続して実施し、生徒個々の体力の向上に努める。	耐震工事が継続される中、学校安全に十分配慮をしてほしい。授業中や部活動において、事故等が起こることのないよう注意、指導を徹底することが重要であると考える。 今年度天候不順のため実施に至らなかった生徒対象の救急法の講習については、実施時期や内容の改善を検討する。
		体育系部活動の加入率を向上させる。	体育系部活動の加入率を50％以上にする。	A			体育系部活動に加入している生徒は46.1％である。	体育系部活動のより充実した活動を実践し、文武両道を図らせる指導に取り組む。	
		体育行事を、生徒が自主的に企画・運営できるよう、実施種目を考えさせる。	体育・ｽﾎﾟｰﾂ好きの生徒を90％以上にする。	A			授業アンケートにおいて、意欲的に参加している生徒は、85.5％である。	体育行事がより充実したものになるよう、改善を図っていく。	
	生涯をとおして健康な生活を適切に営んでいく資質や能力を育てる。	健康診断により健康状態を把握し改善に努め、自己管理能力を高める。	精検受診率を昨年より向上させる。（内科・心臓疾患50％）	A	B		内科・心臓疾患の精検受診率は46％である。	情報提供や、医療勧告書の再配布により、健康の保持増進に取り組めるように努める。	
		生徒対象の救急法の講習を実施し、ＡＥＤの使用法や心肺蘇生法等を理解させる。	運動部員の90％以上受講させる。	C			１学期終業式後、実施予定であったが、天候不順（高温）により中止する。	救急法の必要性を多くの生徒に理解させるため内容の改善を図る。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
広報活動	学校Webサイトで、より迅速で正確な情報の発信を行う。また、閲覧回数が増えるよう更新回数を増やす。	５月に新着任者を中心とした職員研修を実施し、技術的なサポートを行いながら教職員に活用してもらう。また、部活動の公式戦などの時期に合わせ「更新強化週間」を設定する。	Webサイトのログ等で更新回数や閲覧回数を集約する。 年間240件以上の更新回数と、毎月10,000件以上の閲覧回数を目標とする。	A	A	A	１学期の中間考査期間中に、職員研修を実施した。 ６月と11月に「更新強化月間」を設定した。 更新回数、閲覧回数とも年間をとおし、ほぼ目標を達成できた。	職員研修後にWebサイトのシステムがアップデートされたため、操作法が変更され、更新に慣れない職員もいたと思う。 次年度も職員研修を実施することで改善したい。	「更新強化週間」を設定するなどの工夫を更に進め、更新回数、及び閲覧回数の増加を図り、学校からの積極的な情報発信に努めてほしい。
	『学校案内』の完成を従来よりも１か月程度早める。	最も重要と思われる、表紙の写真の選定を急ぐ。また、卒業生のコメントと写真等の依頼と提出も早める。	完成時期をできれば５月末、少なくとも６月初旬までを目標とする。	A	A		完成時期が６月中旬であったが、担当者が初めて取り組んだ中で、従来どおりの時期に完成できた。	これまでは新年度が始まってから作成に取りかかっていたが、今後は年度内に次年度の作成作業を始めたい。	
	オープンキャンパスにおいて、入学希望者に本校の教育活動を理解してもらう。	部活動の見学では、耐震工事中であることを考慮しながらも体験ができる企画が減らないよう場所を確保する。	体験型の企画が昨年比で100％以上実施できることを目標とする。	A	A		台風の影響で、１日目の学校見学が実施できなかったが、全体的に、参加者に満足してもらえるものが実施できた。	次年度も耐震工事中であり、また２日とも参加者が800名を超え、全体会場のさざんかホールの定員に迫っている。、 こうした状況の中でも参加者の満足度を高められるよう取り組みたい。	
奨学金	奨学金の取扱いについて確実・迅速な対応を図る。	奈良県高等学校等奨学金、高校生等奨学給付金及び大学予約奨学金の事務手続きを迅速かつ正確に行う。	個々の事情に応じた適切な対応を申請希望者全員に行う。また、日本学生支援機構における新たな制度への対応を滞りなく行う。	A	A	A	高等学校等奨学金や奨学給付金、大学予約奨学金、その他の奨学金業務を迅速かつ正確に行うことができた。	迅速かつ正確に業務を遂行できるよう、２人以上であたる。	個々の生徒の家庭の経済状況をしっかりと把握し、実情に応じた迅速な取組を進めてほしい。
環境美化	環境美化に対する生徒の意識を高める。	通常清掃や美化を徹底する。大掃除において、重点目標を設ける。	通常清掃、大掃除とも学期ごとにアンケート調査をし年度末に清掃に対する評価を実施する。	A	A	A	清掃アンケートで要望を聞いて用具の過不足を解消するようにしている。	今後もアンケートなどをとおして､要望を聞き、問題を解消できるように取り組む。	耐震工事のための教室移動に伴う避難経路の見直し・点検、シェイクアウト訓練・緊急地震速報訓練の定期的な実施等、防災教育の充実を更に推進することが必要である。
		通学路を中心に数コースに分かれて地域清掃を実施する。	第２学期に１回設定し実施する。	A			天候に恵まれ、無事終了することができた。	予備日を設定して、天候に応じて実施する。	
	防災教育の充実を図る。	火災避難訓練を消防署の指導のもと、早期に実施する。 シェイクアウト訓練・緊急地震速報訓練を実施する。	避難開始後６分以内に避難を完了する。	A	A		５月には雨天のため、消防署の方の講話で具体的な学習ができた。11月には避難訓練を実施できた。	予備日を設定して、天候に応じて実施する。	
	美化委員会活動の活性化を図る。	学年ごとに地域関連事業、防災に関する啓発活動、校内の緑化・美化活動について自発的に計画し実施する。	各学年２種類の活動に取り組む。	A	A		委員会で趣旨徹底することで各種活動に責任を持って取り組んでいる。	今後も教員と生徒との連携を密にして、充実させていきたい。	
	清掃用具・用品の充実及び営繕の迅速化を図る。	学校施設設備の安全点検を定期的に実施し，事務室と連携を取りながら修理・改善を図る。	一斉安全点検を年７回実施する。	B	B		安全点検を実施し、迅速に事務室に連絡し修理・改善を図っている。	耐震工事による変更も増えるので、更に連携を密にしていきたい。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
教育コース	教育・教職に対する理解を深めつつ、積極的に学ぶ意欲やコミュニケーション能力を高める。	個人研究やグループ研究、ディベート学習や討論、スピーチ大会等を実施し、生徒が主体的に取り組む学習を充実させる。	各学習に対する生徒アンケートにおいて、「大変よかった」「よかった」と肯定的に回答する生徒の割合を合わせて80%以上にする	A	A	A	主体的・対話的な学習活動に取り組ませた。自己の考えを表現し、他者の意見を聴く力を向上させることができた。十分な準備時間が必要である。アンケートにおける肯定的回答率は86%であった。	個人研究、グループ研究と発表、ディベート大会の実施とその準備時間と学習時間を十分に確保する。	今年度より実施された「奈良県次世代教員養成塾」の実施内容と効果的な連携が図れるよう教育アンビシャスコースの指導計画等を検討する。 教育連携協定を結ぶ大学の教員はもとより学生を招聘して、様々な体験談や助言等を聞く機会を設定し、教育効果を高める取組を実施する。
		大学等からの出張講義、訪問学習、教育機関への訪問学習など体験的な学習を充実させる。	各学習に対する生徒アンケートにおいて、「大変よかった」「よかった」と肯定的に回答する生徒の割合を合わせて80%以上にする	A			高大連携校からの出張講義や県立教育研究所への訪問学習を実施し、講義形式の授業や体験的な学習を実施することができた。各学年に応じて実施する必要がある。	連携大学、県教育機関、地域等と連携し、協働しながら実施内容を精選する。	
		小学校体験実習の目的を達成するため、事前学習として教職及び児童心理について学び、実習を充実させる。	生徒アンケートにおいて、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	A			高大連携校による「児童心理」や「体験実習の目的」についての講義を実施した。アンケートにおける肯定的回答率は95%であった。	高大連携校との協働をより図るとともに、大和高田市教育委員会や実施校８校と連携する。	
	大学との連携を強め、進路実現に向けた取組を一層充実させる。	教育系大学及び教育系学部に対応した学習活動を充実させる。	小論文や面接、集団討論等大学入試に対応した学習を実施する。	A	A		小論文や志望動機の書き方への取組や集団討議を行い、教育系進路への準備に取り組むことができた。時間確保が難しかった。	２年次から３年次へと段階的な計画を策定し、内容の充実を図る。	
		連携大学からの学生を受け入れ、進路に関わる学習活動を充実させる。	連携大学の学生を年間10名以上受け入れ、進路に関わる講話等を取り入れた学習を実施する。	B			連携大学の学生との授業が警報発令により実施できなかった。２学期に他の連携校に変え実施したが、学生の受け入れは十分できなかった。	少なくとも２大学以上の卒業生に関わってもらえるよう学習計画を策定する。	
	豊かな人間性及び社会性を養うとともに奈良県の教育への興味・関心を高める。	教育アンビシャスコースの生徒全員を「次世代教員養成プログラム」に参加させ、奈良県の教育に関わる講義や体験学習を充実させる。	生徒アンケートにおいて、「奈良県教育への興味・関心が大変高まった」「高まった」と回答する生徒の割合を合わせて80%以上にする。	A	A		県教委「奈良県次世代教員養成塾」を２年コース生徒全員が受講し、教員を志望する他校生徒との交流も活発に行うことができた。アンケートにおいて「関心が高まった」との回答率は100%であった。	「奈良県次世代教員養成塾」は、教職課程を有する奈良県の各大学で土曜日に開講されるが、引き続き校内課外活動（部活動等）との両立を図る。	
		地域活動や大学等での研修講座に積極的に参加させ社会性を育くむ。	科目「地域活動」において単位を認定できる生徒を５名以上にする。	B			アンビシャスコースの生徒を中心に積極的に参加した。	大和高田市だけでなく他の市町村のボランティア活動にも留意する。	
総合的な学習の時間（探究）	社会や世界に関心を持ち、当事者意識をもって主体的に学習に取り組む態度を育成する。	専門家の招聘と現地学習の充実により学習意欲を高める。	外部講師の活用と校外活動を１回以上実施する。	A	A	A	実施できている。成果を検証し次年度の講師・校外学習候補も計画していく。	他の項目もそうだが、「総合学習」から「探究」への変更に伴い全体的な見直しの時期に来ているかもしれない。	新学習指導要領における「総合的な探究の時間」への変更に伴い、生徒の対話的・協働的な学習を更に活性化するため、地域人材の活用等を含めた取組の見直しを検討することを考えていきたい。
		コースの特色に応じて「奈良TIME」の取組を実施し、地域に根ざした学習を行う。	年間計画の中で、奈良の文化や歴史、地誌や環境に関わる学習を実施する。	A			十分に実施できている。	過去の実践例の蓄積はあるが、担当者を入れ替えるなど、新しい発想を求めてもよいかもしれない。	
	対話的・協働的な学習を広いミニュケーション能力を養う。	グループ学習を活発に行わせる。	各学期においてグループでの活動を必ず実施する。	A	A		実施できている。	従来どおり生徒の活動を活性化していく。	
		発表活動を重視し、レポート発表やスピーチ、実演など多様な形式の発表を行わせる。	各学期において発表活動を必ず実施する。	A			実施できている。	従来どおり生徒の活動を活性化していく。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
学校事務	耐震工事並びに修繕箇所を事故や遅滞なく進める。	工事業者等と連携を密にして危険箇所などを事前に察知し、計画的な工事遂行に注意を十分払う。	耐震工事、修繕等が事故がなく、安全に計画どおりに終わるようにする。	B	B	B	事故や遅滞もなく無事に工事を進めることができた。 ９月以降の工事中の騒音がやや気になったところがある。	最終的には滞りなく工事も完了したが、夏休み終了前に騒音が出る工事は完了しておくように事前に工事計画を調整することが必要である。	生徒の学習や教育活動に支障ないよう耐震工事の進行を迅速かつ計画的に行っていく。
	学校運営にかかる経費の節減、及び適切な執行管理を行う。	予算の範囲内の執行に努める。夏場、冬場の電力、ガス使用期間については精一杯の節減に努めるようにする。	光熱水費の削減、節電・節水の慣行等、省エネについての啓発に努め、経費削減に努める。	A	A		省エネの啓発及び耐震工事でＬＥＤ化が進んできたため、電気代が減っている。今後も経費節減に努める。	使用していない電気、ガス、水道はこまめに消すよう通知し、全教職員に徹底してもらう。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
第１学年	基本的な生活習慣を確立させる。	始業・授業開始時間の厳守と挨拶の励行を徹底する。	個々に応じた面談やこまめな声かけ等により、各学期において不注意による遅刻５回以上の生徒をなくす。	A	A	A	２学期において、不注意による遅刻が増えた生徒が若干いたが、こまめな指導により、それ以降はいなかった。	生徒の規範意識向上を目指し、家庭と連携をとりながら、全教員が粘り強い、継続的な指導を続ける。	電車による通学生、特に新入生には、駅構内での安全に十分注意を払ってほしい。ホーム内が狭かったり、混雑が激しかったりと危険が伴っていることを認識することが重要である。
		生徒観察・生徒理解に努め、保護者との連携を密にする。	「学年通信」を年間10回発行し、また、行事予定表を毎月配布することにより、保護者に学校の様子等を周知する。	A			計画どおり、「学年通信」を12回発行し、行事予定表も毎月配布した。	三者懇談会だけでなく、学校行事やＰＴＡ行事など、保護者が来校される機会をとらえ、連携を更に密にする。	
	家庭学習の充実を図り、進路に対する意識を高める。	授業の予習・復習の徹底と、定期考査・模擬テストに向けた計画的な学習により、成績向上につなげる。課題等の提出も確実に行わせる。	授業アンケートにおいて「授業の準備や課題等にしっかり取り組んでいる」生徒を80％以上にする。	B	B		授業の予習・復習が不十分な生徒がいる。「取り組む時も取り組まない時もある」生徒を中心に、家庭学習の習慣化が定着するよう、意欲を喚起したい。	授業が進路実現に向けての要であることを、粘り強く指導する。	
		進路情報の的確な提供に努め、進路に対する意識を高めるとともに、自主的に情報収集するよう促す。また、学習実態調査や全国模擬試験等を活用し、学習意欲の向上に努める。	全員に全国模擬試験を3回以上受けさせる。また、長期休業中の「学習の記録」を提出させ、それぞれの結果をもとに面談を行い、個々に応じた的確なアドバイスを与える。	A			３回の模試と１回のスタディサポートを受けた後、面談等を通じて担任からアドバイスを与えた。長期休業中の「学習の記録」を参考に学習状況を把握し、高い目標を掲げ、日頃の積み重ねを大切にしながら学力を定着させるよう指導した。 新テストに向けては、GTEC でSpeakingを含む４技能を受けさせた。また、本人の振り返りや来年度への指導継続のため、ポートフォリオを導入した。	入試改革に関する情報及び多様な進路選択に向けた情報の収集に努めるとともに、適宜、必要な情報を提供・指導する。また、個々に応じた面談を重ね、粘り強く取り組むように指導する。	
		実力養成講座の内容充実に努める。	実力養成講座の出席率を90％以上にする。	B			インフルエンザや風邪等、体調不良以外の理由で欠席する生徒はいなかった。	積極的に講座に取り組むよう指導するとともに、健康管理にも十分留意させる。	
	将来を見据えたキャリアデザインを基に、適切な類型を選択させる。	ＨＲや面談をとおして明確な進路目標をできるだけ早期に設定させ、類型選択につなげる。	進路学年集会を年間１回以上、進路ＨＲを３回以上実施する。	A	A		進路学年集会や類型科目選択説明会において、進路目標について考えさせた。進路ＨＲは、４回実施した。	主体的に設定した進路目標に向けて努力するよう、指導を継続する。	
	人間力育成による、安心・安全な環境づくりに努める。	部活動や生徒会活動、ボランティア活動、学校行事等への積極的な参加を促し、集団の中での個の役割を自覚させるとともに、人権意識の向上を図る。	学級役員や各種行事における各自の役割を自覚させ、その責務を果たすよう働きかける。また、人権ＨＲを８回以上実施する。	A	A		ＨＲ等での指導を通して、全員が学級役員や各種行事における役割を果たしている。更に、自主的、積極的に動くよう指導していきたい。人権教育ＨＲは、８回実施した。	それぞれの責務を果たすことが人間としての成長につながることを、実感させる。各種活動において、個々の良い面が発揮できる仲間づくりを行う。	
		学年担当者、教科担当者、養護教諭、保護者などと、多様な情報交換・連携を図り、より深い生徒理解と迅速に対応できる体制を整える。	欠席・欠課生徒について、その都度、本人・保護者及び関係者とのコミュニケーションを密にする。	A			学年全体として、情報共有しやすい雰囲気のもと、欠席・欠課生徒についても、関係者間の連携を密にすることができた。	よりきめの細かい指導を目指し、日頃から関係者間のコミュニケーションを大切にする。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
第２学年	基本的な生活習慣を確立させ、学校生活を更に充実したものにする。	始業・授業開始時間の厳守と挨拶の励行を徹底する。	各ＨＲや授業で指導を徹底し、各学期において不注意による遅刻５回以上の生徒をなくす。	A	A	A	２学期になって、不注意による遅刻が増えた生徒が若干いる。その都度、繰り返さないよう指導している。	１回の遅刻に対し入室許可時、入室時、放課後と３度の指導を行っている。	
		生徒理解に努め、保護者との連携を密にする。	「学年だより」を年間10回発行し、また「行事予定」を毎月配布することにより、保護者に学校の様子を知らせる。	A			「学年だより」を10回発行した。生徒や教育実習生に一言書いてもらった回がある。「行事予定」を毎月配布した。	三者懇談会や学校行事、ＰＴＡ行事など保護者が来校される機会に、今後の予定を案内している。	
	家庭学習の習慣を確立させ、進路実現に向けた準備をさせる。	授業の予習・復習を徹底させ、また定期考査・模擬テストのやり直しを促し、実力を付けさせる。	授業アンケートにおいて「授業の準備や課題等にしっかり取り組んでいる」生徒を80％以上にする。全員に模擬テストを４回以上受験させる。	B	B		授業への予習・復習が甘い生徒が見られる。模擬テストはほぼ全員の生徒が受験した。日々の学習努力の積み重ねが大切だと認識するよう取り組んでいく。	授業、ＨＲ、定期考査や模擬試験の返却など機会をとらえ、積み重ねの大切さを実感させる。	
		進路情報を確実に提供する。またオープンキャンパスやインターンシップに積極的に参加させ、自己の適性に会った進路を考えさせる。	進路ＨＲを３回以上実施し、進路に関する集会を年間１回以上実施する。オープンキャンパスもしくはインターンシップに参加する生徒を80％以上にする。	A			年間計画通り進路ＨＲを４回実施した。ほぼ全員の生徒がオープンキャンパスに参加し、それに基づいたＨＲを展開した。インターンシップ参加者は人数は多くないが、高い意識を持って活動した。	模擬試験は部活動や次世代教員養成塾との重なりに対処しながら、ほぼ全員が受験した。科目選択など申込手続きの段階から、受験本番を意識させる。	
	学校行事をとおして、社会性や奉仕の精神、協調性を養う。	学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、部活動等への積極的な参加を促し、集団の中での個の役割を自覚させる。	学級役員や各種行事における各自の役割を自覚させ、その責務を果たすよう働きかける。	A	A		多くの生徒がＨＲ活動や各種の行事で、積極的に参加し役割を果たした。部活動へも熱心に頑張っている者が多い。	生徒会や委員会、部活動、クラスの中で良き個性が発揮できるよう、仲間づくりを行う。	
		修学旅行において、修学旅行委員とともに、その内容が充実したものになるよう計画を立てさせる。	修学旅行後のアンケートで、「満足した」生徒を90％にする。	A			修学旅行後のアンケートで、満足したと回答した生徒は90％を超えた。	今年度の成果と課題を次年度の第２学年に引き継ぐ。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
第３学年	基本的な生活習慣を確立させ、学校生活を更に充実したものにする。	最上級生であるという自覚を持たせ、始業・授業開始時間の厳守と挨拶の励行を徹底する。	各学期で、不注意により５回以上遅刻する生徒をなくす。きめ細かい指導を徹底する。	B	A	A	寝坊などによる不注意で遅刻を繰り返す生徒が、若干名いた。	時間を守ることに対して、生徒の更なる自覚を促す。	
		生徒理解に努め、保護者と教職員間の連携を更に深める。	「行事予定」を配布し、月ごとの学校の動きを知らせる。生徒の学校生活での変化を見逃さず、保護者、教師間で情報を共有する。	A			毎月の行事予定、その他多様な情報を提供してきた。生徒の学校生活について、保護者とも連絡を密にすることを心がけた。	学校生活が円滑にいくよう、繰り返し情報提供を行う。	
	進路実現に向けて主体的に学習し、粘り強く取り組む姿勢を養う。	授業を大切にし、集中して受ける姿勢を養う。継続した学習で実力を付けさせる。	授業アンケートで「授業に意欲的に取り組んでいる」生徒を85パーセント以上にする。	A	A		授業アンケートでは、77%の生徒が意欲的に取り組んでいると答えたが、目標には達していない。	意欲的に取り組めるよう、授業を充実させていく。	
		進路情報を確実に提供し、またその情報を、積極的に活用するよう促す。	進路ＨＲを年間４回以上実施する。模試への積極的な受験と、その結果の見直しを働きかける。	A	A		生徒それぞれの進路希望に沿った指導を心がけ、早めに対策を講じるよう働きかけることができた。	受験については、最後まで諦めず努力を続けられるよう配慮する。	
		積極的に実力養成講座を受講するよう促す。また、進路室を有効に利用させる。	実力養成講座受講生徒の出席率を90パーセント以上にする。	B			実力養成講座受講生徒の出席率は目標を達成している。予習・復習を徹底させることが必要である。	目的意識をはっきりさせ、また講座の内容をさらに吟味していく。	
	学校行事をとおして、社会性や奉仕の精神・協調性を養う。	学校行事、生徒会活動、ボランティア活動への積極的な参加を促し、集団の中での個の役割を更に自覚させる。	学級役員や各種行事における３年生としての役割を自覚させ、その責務を最後まで果たすよう働きかける。	A	A		生徒たちは、３年生として、自覚を持ち、積極的にそれぞれの責務を果たしていた。	３年間で様々な活動に参加し、多くの経験を積むことができるよう生徒に働きかける。	